

令和元年第9回大竹市教育委員会

令和元年第9回大竹市教育委員会を、令和元年8月16日（金）13時30分から大竹市役所3階第2会議室において開催した

1 出席及び欠席委員の氏名

教育長	小 西 啓 二	出席
1 番	畠 中 透	出席
2 番	新 矢 佳 弘	出席
3 番	中 田 美 穂	出席
4 番	池 田 良 枝	出席

2 出席職員の氏名

(総務学事課長)	真 鍋 和 聡
(総務学事課)	重 安 千 陽
(〃)	中 川 香代子
(〃)	瀬 川 隆 司
(〃)	丸 小 真
(〃)	嘉 屋 祐 作 (日程第3, 4のみ)
(生涯学習課長)	柿 本 剛
(選定委員会会長)	野 崎 光 弘 (日程第3のみ)

3 会議に付した議案及び議決・可否数等

教育長 小西 啓二 が議事進行。

議事録署名委員の指名 中 田 美 穂

議事日程のうち、日程第3及び日程第4は教科書採択に関する事案であり、静ひつな採択環境を確保した上で、活発な議論を行えるようにするため非公開と決定した。

日程第1 会期決定について 本日1日限りと決定。

日程第2 議案第21号 大竹市立小中学校職員服務規程の一部改正について

事務局説明

平成30年12月21日に広島県人事委員会規則「職員の勤務時間及び休暇等に関する規則の一部を改正する規則」が公布され、規則の改正等について平成30年12月26日付で広島県教育委員会教育長から通知があったことから、本市におい

ても県と同様の取り扱いとするため、「大竹市立小中学校職員服務規程」の一部改正を行うもの。

改正する内容は、家族介護等休暇に係る看護を事由とした休暇取得の対象者に「孫」の追加等を行い、同規則の「別記様式第4号（第6条関係）」中、第15号「家族の看護等に係る休暇の対象者」の⑥に「孫（子の子）」を新たに加え、従来の⑥以降の対象者を繰り下げるもの。

なお、施行日は本日で適用は平成31年1月1日とする。

主な質疑等

（新矢委員）孫の看護のために休暇を付与する事になった背景を教えてください。

（事務局）大竹市の職員は「大竹市職員の勤務時間・休暇等に関する規則」において、特別休暇の中の介護休暇を取得する場合の対象者に孫が含まれている。

（畠中委員）何日取得できるのか。

（事務局）5日である。

（中田委員）子育て中の家庭では病気等で子供に学校を休ませる場合、ある程度の年齢になれば大人がいなくても自宅でいられるが、小さな子供がいる家庭では一緒にいる人が必要になる。入院した場合等、子供の休みが長期におよぶ場合に両親以外が看護休暇を取得して、看てもらえる事はとても助かるし、働き方改革にもつながるのではないかと思います。

議案第21号採決 全員が賛成し原案どおり可決

日程第3 議案第22号 令和2年度大竹市使用小学校用教科用図書の採択について

事務局説明

令和2年度から小学校で新たな学習指導要領が実施される事に伴い、使用する教科書を選定する必要がある。教科書は「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第14条」により、使用する前年度の8月31日までに採択する事とされているため、文部科学省発行の「小学校用教科書目録（平成32年度使用）」に掲載されている教科書の中から令和2年度以降に使用する教科書を採択する必要がある。議案では全ての教科書の種目及び発行者を採択の対象としているので、この中から1種目につき1者ずつ採択を行う事となる。

本年第6回定例教育委員会において承認された「令和2年度大竹市使用教科用図書の採択基本方針」等に基づき、採択事務の過程を経て、大竹市教科用図書採択地区選定委員会から選定委員会が推薦する発行者とその理由、調査研究による全発行者の特徴を記載した「大竹市立小学校教科用図書採択のための調査研究について（答申）」が提出された。答申の内容については教科書選定委員会会長である大竹小学校の野崎校長が1種目ずつ説明を行う。

なお、選定委員会の答申で種目毎に発行者を推薦しているが、採択は教育委員会が行う事となる。議案には採択の対象として種目毎に全ての教科書及び発行者を掲載しているので、この会議で十分審議し、理由を明確にしたうえで採択を行うものである。

（教 育 長）選定委員会会長は配布資料「大竹市立小学校用教科用図書採択のための調査研究について（答申）」の説明をしてもらいたい。

（会 長）令和元年5月17日付けの諮問について、5月23日に6名の委員で構成された選定委員会を開き、5つの観点で調査研究を進める事を決定した。その後、5月28日から7月5日の期間で、決定した留意点等に基づき、教科毎の調査員が全ての教科書の調査研究を進め、その結果について、7月31日の第2回の選定委員会で各教科の代表者から報告を受けた。さらに、8月6日の第3回選定委員会において、調査員から報告を受けた内容について、慎重に審議した結果を選定委員会答申整理票としてまとめ、「大竹市立小学校用教科用図書採択のための調査研究について（答申）」を作成した。種目毎に順次選定した発行者及び選定した理由を説明するので、審議いただきたい

【国語】

野崎会長 答申のまとめを説明

主な質疑等

（畠中委員）基本的には東京書籍で良いと思う。理由は選定資料にもあるとおり、単元の導入の部分を詳しくまとめている、情報量が多い点である。ただし、本の厚さは気になる。東京書籍の教科書は高学年では1学年1冊だが、他の発行者では2冊に分かれている教科書もある。異なる理由について教えてもらいたい。

（会 長）選定にあたり、その点について意見があった。現在、教科書が重く、全教科の教科書をランドセルに入れると、児童の登下校時の負担が大きいいという点が問題になり、課題となっている。しかし、上下に分けず、1冊にしている教科書の良い面として、年間を通じて学習する内容を児童が系統的にとらえやすいという点がある。東京書籍は1年生から4年

生は上下2冊に分かれているが、5、6年生は1冊である。5、6年生であれば年間を通じた内容を1冊に掲載した教科書が望ましく、また、体力の面でも持ち運びできるであろうという結果となった。

(畠中委員) 持ち運びの面でいえば、発行者によって教科書の大きさの違う場合があるが、その点について意見が出ていれば教えてもらいたい。

(会長) 理科や生活科等は教科書の大きさが異なるものがある。大きい利点としては、写真や資料が大きくて分かりやすいという点である。先ほども出たが、大きいと重くなるので、良い面、悪い面を考慮して大きさが異なり、どこに重点を置くかで、各発行者が大きい版とするか小さい版としているかという違いとなっている。

(新矢委員) 1年生の教科書から順に見たが、東京書籍が学校図書が良いと思う。内容では、東京書籍は5年生の内容が少し難しいのではないかという印象を受けたが、相対的にみれば東京書籍が良いと考えている。良い点としては、引用している写真や絵が視覚的に頭に残りやすく適切で、興味が湧くのではないかと考えている。

(畠中委員) 東京書籍は6年生の教科書で広島の記事が書いてあり、その他にも万葉集や歴史書の中から引用している点が良いと思う。

(中田委員) 全体的に見ると、総合的に東京書籍が良いと思う。図書館の利用等について全学年に掲載されており、漢字辞典の使い方等の部分でも他の教科書と比較して東京書籍が一番わかりやすい。他に具体的な例で言えば、他の委員が言われたように、挿絵の部分で3年生の教科書に「モチモチの木」という教材があり、学校図書や光村図書出版が同じ教材を使用しているので比較したところ、全く同じ絵を使用しているが、東京書籍がより印象に残る使い方をしている点で優れていると思う。

(池田委員) 東京書籍が良いと思う。先ほど会長から説明のあったように学習の流れが児童に良くわかる内容になっている。特に教材の後の最後の部分で、今から何を学習していけば良いのかきちんと書いてある。特に高学年では自分で次の課題がわかる内容になっている点がとても良いと思う。中学校の学習内容に古典が多くなっているが、それらの取扱いが豊富でわかりやすく提示してあると思う。

(教 育 長) 国語については東京書籍を採択する。理由は次のとおりである。

- ・児童が使いやすい
- ・漢字辞典の使い方が示されている。
- ・視覚に訴えて児童が理解しやすい。
- ・古典の扱いが豊富である。
- ・総合的にわかりやすい。

答申書のとおり、東京書籍の教科書に決定。

【書写】

野崎会長 答申のまとめを説明

主な質疑等

(池田委員) 書写は国語と同じ発行者を選ぶことになるのか。

(会長) 選定委員会では、一緒に発行者が良いか、又は別の発行者が良いのかという話があり、あえて別の発行者でも良いのではないかという意見もあった。理由としては様々な教材に触れる事は良い面ではないかという事だった。しかし、国語で習っている事を書写で復習するという形で学習する事がより効果的ではないかという意見の方が多かった。

(中田委員) 東京書籍が良いと思う。理由は、最初に姿勢が掲載されていて、それが分かりやすいと思った。「背中をピン」、「ドンと押さえる」、「床はペタ」という、児童が分かりやすい、音で感じる事の出来る表現をしている。最近では毛筆で字を書く機会が無いので、イメージする事が難しいが、「毛筆でかいてみよう」というところで、書く際の筆の止め方等が書いてあるので分かりやすいと思う。その他にも、最近では左利きの児童が増えてきているが、東京書籍は左利きについて配慮があるので、筆の運び方等イメージしやすいと思う。

(新矢委員) 東京書籍が良いと思う。3年生の教科書に筆の作り方や墨の作り方が具体的に掲載されていて熊野の筆も載っていた。

(畠中委員) 学校図書が良いのかと思う。最初に低学年の教科書を重点的に観たら、学校図書の1、2年生の教科書にシールが入っていて、遊び心を感じた。1、2年生は遊び心があった方が一生懸命学習するのではないかと思う。シールについて何か意見があったか。

(会長) シールについて特に意見はなかったが、低学年では、教科書にシールがついてなくても、各指導者がシールを用意して、活用していると思う。

(新矢委員) 気を付けるところ、「トメ」や「ハネ」等はあまり大差がない。全体的に正しく学べるような教科書となっている。

(池田委員) 東京書籍の硬筆は高学年での毛筆を意識したものとなっていると思う。そう考えると、高学年になっても硬筆を大事にしている教科書だと思う。

(新矢委員) ページ数でみれば学校図書が多い、東京書籍は少ないが中身が充実している。

(教 育 長) 意見としては、東京書籍と学校図書がでていますが、東京書籍を採択したいとの意見が多いため、書写は東京書籍を採択する。理由は次のとおりである。

- ・系統的な学習の流れができています。
- ・子どもが学びとしてとらえやすい。
- ・1年生への配慮をした指導ができる。具体的には左利きの児童への配慮、音で感じる事の出来る表現等、児童がわかりやすく、意識しやすい学習ができる。

答申書のとおり、東京書籍の教科書に決定。

【社会】

野崎会長 答申のまとめを説明

主な質疑等

(新矢委員) 日本文教出版と教育出版が良いと考えている。日本文教出版の教科書は全国の問題の取り組みが記載されている点が優れていた。教育出版は6年生の教科書の内容が非常に多種多様で、歴史、地理、政治経済もわかりやすいものを選んで掲載していると思う。各発行者が多種多様な異なる作り方をされていて、東京書籍を見た時に良いと思ったが、日本文教出版と教育出版を見ると、この2者も良いと感じた。

(中田委員) 日本文教出版と教育出版の二つを重点的に見てみた。6年生の教科書を主に見たところ、日本文教出版は語句が東京書籍に比べて難しい記述になっていると感じたが、中学生へ進学して社会を学ぶ前段階の教科書としてはこの位の記述が良いのかと思った。日本文教出版はポツダム宣言を記載しているが、東京書籍や教育出版には記述がなかった。この部分の学習は気になる場所である。内容が充実しているのは日本文教出版だと思った。

(池田委員) 東京書籍は2冊に分かれているが、何か良い面があるか。

(会 長) 歴史編、政治・国際編として分けることで、政治や国際理解や協力のあたりを明確に学習させようという意図があるのではないかと考えている。順番としても最初に政治が編成されているので、そのような意図があるのではないかと思う。

(畠中委員) 日本文教出版が良いと思う。領土問題を一番よく掲載しているのは日本文教出版だと思う。東京書籍にも記載がみられるが、日本文教出版が一番多く記載していて、分かりやすい印象である。領土問題に関していえば、教育出版は少ないと思う。どこを重点的に教えるかという面も

あるので、環境問題、歴史等、全体を観る必要があると思うが、日本文教出版が良いのではないかと思います。

(池田委員) 日本文教出版の内容は選択して学習する内容が多い。社会科の内容は沢山あり、その中から選んで学習している。選択する内容が多いと、あまり学習しない部分があるにも関わらず、結果として教科書が分厚くなるばかりになるので、その面を懸念している。東京書籍は2冊に分かれているが、1冊にまとめ、流れが分かる形の教科書が良いのではないかと思います。そう考えると教育出版は流れができていると思う。

(新矢委員) 社会科は特に様々な分野があり、各社が取り組んでいる部分が現れるのだと思う。我々が意見を出しているところだが、採択するにあたり、児童に適切な教科書として教員が選んだという点も考慮しなければいけないのではないかと思います。学校で学習、授業を進めやすい教科書という観点も必要ではないか。

(教 育 長) 現在の意見をまとめると、日本文教出版か教育出版の二つから採択するという方向で進めて良いか。

(新矢委員) 日本文教出版か教育出版の名前が出ているが、調査研究の結果、選定委員会では児童の学習に適している教科書として東京書籍を選定しているので、東京書籍を採択する事も考えられる。

(畠中委員) 現在、歴史問題や領土問題について考える事が多い。東京書籍は社会科に限らず、全分野で完成度が高い。

(教 育 長) 環境については日本文教出版が取り上げている。これからの大きな教育の流れとして、児童が主体的に課題解決できるような学習を進めていく事が重要になる。その点も含めながら、どの教科書であれば児童が主体的に動き、学ぶ事ができるかという事を考慮する必要がある。

(新矢委員) 日本文教出版が良いと思う。教育出版が悪いというのではなく、教科書を観るなかで、自分が学習したいと感じた教科書であり、児童に知ってもらいたい環境問題等の事を考えると、日本文教出版が一番良かった。

(教 育 長) 少し時間をとるので、現在までの意見を踏まえたうえで、それぞれ教科書を確認してもらい、審議をしたい。

(会 長) 確認するにあたり、参考として選定委員会での各選定委員の意見を話すと、意見は次のとおりである。

- ・社会科については東京書籍と教育出版で迷った。
- ・教育出版は社会の学びについて研究している。
- ・東京書籍は他社に比べてページ数が多いが、生活との繋がりを持たせながら考えさせる工夫がされている。

- ・教育出版は多文化共生，憲法論議，他国とのつながり等があり，作りが丁寧である。
- ・東京書籍は主体的，対話的に深い学びを進めることができるように，問題解決的な学習の充実が図られている。ここが一番大事な部分であり，東京書籍が良いと思う。
- ・東京書籍は社会の見方，考え方を培うという点で，世の中の仕組みが分かり，理論追究のための工夫がされている。学習したことを総合して産業の特色を考えまとめる工夫がされており，東京書籍の方が内容的に深いと感じた。

（中田委員）主体的な学びという面が一番大事なところであり，その面は教員の方が幅広い視点で教科書を観ていると思う。児童がいかに主体的に学べるかという点に重きを置いて選ぶ必要があるのだと感じている。選定委員会での委員の意見を聞くと東京書籍がより適切であるという事なので，教育現場にとっては東京書籍が良いのではないかと感じた。

（新矢委員）我々が学習する訳では無く，児童が学習するための教科書なので，その点を考慮し，その目線に立って考えているつもりだが，どこか相違している部分があるのではないかと思います。候補として名前の挙がっている２者が選考委員会で選定された教科書と相違しているという事は我々の視点や感覚と違う部分での視点があるのではないかと思います。そこが一番大事なのではないかと思います。自分も教科書採択にあたり，教科書を観て，長い時間をかけて考えた結果，主観として意見を言った。現在候補として挙がっている３者で考えると，東京書籍は自分の候補に入っていなかったが，自分の選んだ教科書を採択してもらいたいという事ではない。

（畠中委員）自分は２番目の候補を東京書籍にしている。１番目の候補は日本文教出版だったので，その旨意見を述べたが，日本文教出版が良いと思ったのは歴史問題，領土問題が充実していた点であり，常にそこを学習する訳ではないので，総合的な視点で観ると東京書籍でも良いと思う。

（池田委員）先ほど選定委員会の委員の意見を聞いて，各教科書の違いを確認したが，まとめの部分の扱いが他の教科書と東京書籍の違う点だという事を改めて認識した。社会科はここで学んだことを今の自分たちの生活と関連付けていく教科書だと思うので，そういう意味でまとめの部分はすごく重要なのだと思う。自分としては東京書籍の内容の並び方と教科書を分けている事だけが気になる点である。

（事務局）６年生は主に歴史とその他の内容という形で，約半分ずつの分量としている。授業時間数もそのような配分となるので，便宜上，歴史とそ

の他という形で教科書を分けているのではないかと考えている。

(池田委員) 今までであれば歴史に重点を置いて優先的に時間を使って学習し、残りの時間で政治や国際編を学習するため、歴史以外を学習する時間が短くなる事もあったが、政治や国際編に力を入れて学習するという事を意識した作りの教科書になっているのではないかという印象を受けた。

(教 育 長) 日本文教出版，教育出版，東京書籍について様々な意見が出たが，各委員の最終的な意見をまとめると，選定委員会から答申された東京書籍の教科書を使用する事が望ましいという事で採択したい。

答申書のとおり，東京書籍の教科書に決定。

【地図】

野崎会長 答申のまとめを説明

主な質疑等

(新矢委員) 地図は2者しかないが帝国書院の地図は大変見やすい。広く見渡す地図等は複雑では無く，中学年が使用しても良いと思う。もちろん高学年にも適していて，細かい部分も良くできているので帝国書院が良いと思う。

(池田委員) 帝国書院が良いと思う。従来の帝国書院の教科書よりとても進化していると感じている。

(中田委員) 帝国書院が良いと思う。東京書籍の教科書はとても情報量が多いと思った。東京書籍の教科書は大人の視点で見ると，得られる情報が多く，良い教科書かもしれないが，児童の視点でみると，複雑で，情報量が多過ぎるのではないかと考えている。地図としての使い方という部分に着目してみると，帝国書院のものは児童にとってとても使用しやすい教科書だと思う。

(畠中委員) 2つの教科書で迷ったが，3年生から6年生まで地図を使用する点を考えて，自分も帝国書院を選んだ。地図の美しさのみを判断材料とすれば東京書籍が優れていた。

(池田委員) 特に3年生，4年生が使用する点を考慮すると，他の委員も言われたように，児童の視点で教科書を観た場合，使いやすいのは帝国書院の方が良いと思う。

(教 育 長) それでは地図は帝国書院を採択する。理由は次のとおり

- ・児童にとって，特に入門期の3年生が使用しやすい。
- ・扱いやすい教科書である。

答申書のとおり，帝国書院の教科書に決定

【算数】

野崎会長 答申のまとめを説明

主な質疑等

（新矢委員）啓林館では無く，大日本図書が良いと思った。計算の事例等が示された漫画が掲載されている点がとても良い。図を使用して導く方法が他の教科書に比べて理解しやすいと思った。設問の文章が非常にシンプルで，算数自体を難しくしていないという印象である。5，6年生の教科書を観た時に，設問に適した絵を挿入していると思った。算数の問題は教員が別途プリント等を作成するのか。

（会 長）練習問題等を作成している。

（畠中委員）啓林館は問題の数が少ないと思う。学校図書の教科書は問題数が多い。具体的な例で言えば，配列と分量の計算では学校図書が一番多く掲載していて，他の教科書や啓林館に比べて多い。問題数の多さという視点で学校図書を選んだが，教員が練習問題を作るのであれば，学校図書の教科書ではなくても良いのかと思う。

（会 長）各学年，学習ドリル等を購入して演習問題を行い，さらにプリントを加えて学習している。

（池田委員）学校図書又は啓林館が良いと考えている。2つを比較した際，教科書の大きさが違うという点があった。啓林館の教科書は児童が説明をする力をつける事を目的としていて，教科書の中に説明を行う手順の記述があり，それが繰り返し出てくる。繰り返し学習することにより児童が説明の方法を習得できるよう，丁寧に作られている。啓林館の教科書は多様な考え方が多く掲載されていると思う。

（中田委員）啓林館が良いと思った。まず，QRコードがついている点が面白いと思う。各学年の教科書の最初に児童の字で記載された「わくわく算数ノート」があり，その学年に応じた具体的なノートの作成例があったのがとても良いと思った。また，ページの下に「めあて」が書いてあり，その他にも「もっと練習」という項目で三角形の図で示した関連する演習問題が次のページ以降の巻末の所で練習できるように書いてあった。その他，振り返りもあり，良かった。他に具体的な例では，異なる学年で同じ図を使用していて，学年のつながりがある点が良い。

（畠中委員）算数を学習するにあたり，自分で問題を解く際には公式を使用する。小学校ではあまりないが，公式を使用することに疑問を持つと時間を要する。単純に公式を使えば解けるという事を習得すれば良いが，公式に

疑問を持つと進めなくなってしまう。自分で主体的に考える学習というのは時間を要する。学習した事をそのまま受け入れる事ができれば、算数や理科は自分のものになるが、そこで何か疑問を持って立ち止まると、遅れる可能性がある。疑問を抱かせないような進め方をする教科書としては啓林館が良いと思う。

(教 育 長) 最近は、教えるのではなく、児童に発見させる、考えさせるという学習が主流になっている。

(池田委員) 算数も導き方が1つではないというのが主流であり、同じ答えを導き出すのも「こんな方法がある」、「他にもこんな方法もある」と考えて、その中で一番早くて簡単な方法はどれかと問いかけ、公式に結びつくという形の学習になる。そういう面で様々な考え方が出せるよう、児童が思い付かない例もあると思うので、そこは教員の方から提示しないといけない。「こんな考え方もあるよ」と教える際にも教科書が必要で、「教科書を教えるのではなくて教科書で教える」と言われるように、教科書そのものを読むというよりも、まずは児童に考えさせて答えを聞いて、「A君が考えたのはこの教科書の中に出てくるBさんと同じだね、整理してみよう。」という進め方になるので、様々な考え方が多く出てくる啓林館の教科書が良いと思う。

(畠中委員) 最終的に答えは一つだが、導き方を大事にし、重視するという事だと思う。

(池田委員) 先ほど話のあった、なぜこの公式使わないといけないのかという事を疑問に思うということはとても大事で、現在、そこに力を入れる方向になっている。

(畠中委員) テスト用の勉強だと、単純に公式を使用して解かなければいけない。公式を使う意味を考え始めると解けなくなる面がある。

(池田委員) 試行錯誤することで、公式を使う方が簡単だという事を児童に習得させる。単純に公式を使いなさいと教えると、なぜ使わなければならないのかと疑問を抱くかもしれないが、様々な方法で苦労して導き出すことで、「そうか、この公式使ったらもっと早いんだ。」という考えになり、自分の中に「ストーン」と落ちて、それを使えるようになる。今はそれが主流となっている。

(新矢委員) 思考力や創造力、それを養うような算数の過程は大事なことだと思う。自分は大日本図書が良いと思うが、児童の学習に適した教科書を選びたいと考えているので、それが啓林館ということであれば、啓林館も良いと思う。

(教 育 長) 算数は啓林館を採択する。理由は次のとおりである。

- ・様々な考え方が多く掲載されており、思考力や創造力を養うような算数の過程及び系統的な学習の内容である。

答申書のとおり、新興出版社啓林館の教科書に決定。

【理科】

野崎会長 答申のまとめを説明

主な質疑等

（新矢委員）啓林館は候補に挙げていなかったが、説明を聞いて納得できる部分が多かった。当初、理科は大日本図書が良いと思った。理由は実験における結果や思考、結論に至る流れが大変良かった。5，6年生の教科書では教育出版とも見比べたが、大日本図書が優れていたと思う。しかし、啓林館の説明を聞くと、啓林館も良いと思った。

（池田委員）啓林館の教科書は、問題・予想・実験・考察という流れが繰り返されていて、わかりやすいという面で優れている。大日本図書でも同じような内容がみられるが流れが特に分かりやすいのは啓林館だと思う。

（畠中委員）小学校の時の理科は実験や屋外での観察が主になると思う。教科書には実験の方法やその結果があり、ほとんどの教科書で出てくるが、なかでも東京書籍が多いと思った。

（中田委員）啓林館が良いと思う。東京書籍は考え方を導きすぎていると感じた。啓林館は全てを導くのではなく適度な内容となっていて、写真の使い方も良いと思う。

（教 育 長）理科は啓林館を採択する。理由は次のとおりである。

- ・問題、予想、実験、考察という流れが繰り返されている面が優れている。
- ・考え方を全て導くのではなく適度な内容であり、写真の使い方も良い。

答申書のとおり、新興出版社啓林館の教科書に決定。

【生活】

野崎会長 答申のまとめを説明

主な質疑等

（中田委員）説明を受けた東京書籍が良いと思う。理由としては、上巻に公園で遊ぶ内容があり、自分の家の近くの公園等を想像しやすく、同じ場所の季節の移り変わりが示されているので、児童にとって様々な発見があるのではないかなと思う。他にも種が変化していくページがあり、種から

変化していく様子が良く分かる。

(畠中委員) 東京書籍ではなく、日本文教出版を候補にした。理由は紙の質が優れていた。低学年が使用する教科書なので、内容量、見た目、絵に加えて教科書を触った感じで判断した。

(池田委員) 絵はすごく大事だと思う。日本文教出版は今風の絵を載せていて楽しそうだという印象を受けた。ただし、内容は少しわかりにくいと思う。

(畠中委員) 教科書によって紙質が違う。使用していて破れるような事はないか。
(教 育 長) 教科書は強く作られている。

(畠中委員) 自分の同級生の例で、教科書から必要な部分を取ってノートに貼り付けて、自分のノートを使って新しい教科書を作っていた者がいた。

(池田委員) 最近は教科書の後ろにシール等様々な教材が付いていて、ノートに貼れるものもある。

(畠中委員) それは面白いと思う。低学年の児童はシールを貼る等して学習する事が楽しいと思う。

(池田委員) 生活科というのは教科書を見ながら勉強するというよりも、体験したり、何かを育てたり、探検に行く内容が多く、それらを実施した後に振り返りやまとめの部分で教科書を確認するという使い方になる。その視点から言うと、先ほどの委員の意見を聞いて、児童が様々な変化を把握しやすいという面を考えると、東京書籍が良いと思う。

(畠中委員) 具体的な生活科の授業の進め方について確認したい。

(会 長) 委員から話のあったとおり、教科書を見ながら机上で学習するというのではなく、屋外に出たりして、活動を通して気づき学んでいくというのが主な進め方である。

(畠中委員) 学年によって版の大きさが違う点はどうか。

(会 長) 版の大きさについては、理科の教科書を選定する際に意見が有り、東京書籍、啓林館で意見が割れた。5, 6年生が大きな版の教科書を使うと、中学校に行った際に教科書の大きさの違いによるギャップが大きいのではないかという点で、高学年には大きな版は必要ないのではないかという意見があった。一方で低学年の生活科については、版が大きいほうが、写真や絵が分かりやすく、良いのではないかと意見があり、検討した結果、このような選定となっている。

(池田委員) 従来は教科書に大きな変化はなかったと思うが、今回の各者の検定本は大きく変わっていて驚いた。

(教 育 長) ランドセルの大きさもA4版対応になっている。

生活については東京書籍という事で採択する。理由は次のとおり。

・生活科の学習を行うための活動や体験等の内容が多く掲載されていて、

それらを実施した後の振り返り及びまとめの際に確認等を行うための教科書として適切である。

- ・児童が様々な変化を把握しやすい。

答申書のとおり，東京書籍の教科書に決定。

【音楽】

野崎会長 答申のまとめを説明

主な質疑等

（新矢委員）教育出版が良いと思う。最初に1年生から3年生，そのあと高学年の教科書となるが，音楽の学習に適切な写真や絵が使われていて，とても良い。特に写真は芸術的なものがあり，内容に譜面は多いが，難しい曲だという感じがしなかった。これは5年生，6年生も同様だった。

（畠中委員）教育芸術社の内容では，童謡等が自分たちにも親しみがあるものが多かった。

（新矢委員）どちらも良い教科書だが，自分は教育出版の内容が頭に残ったので教育出版を選んだ。

（畠中委員）最後に「君が世」が掲載されていて，国家を音楽で知る事ができる点が良いと思う。歌の内容は小学校には難しいと思うが，国家の歌であるという事や歌詞の意味などは教えるのか。

（会長）低学年の児童には難しい内容であるが，かみ砕いて内容を教えている。

（池田委員）教育出版と比べると，教育芸術社は和楽器や和の歌が大事にされていると思った。

（中田委員）4年生で使用する教科書の内容で，地域に伝わる民謡がある。教育出版にも「伝えられてきた歌」等があるが，教育芸術社は地図の中に一覧で表示している点が良いと思った。また，音楽でも振り返り等の内容があり，教育芸術社が良いと思った。

（教 育 長）教育芸術社を推す意見が多いようである。

（畠中委員）音楽というのは曲だけではなく，音を出す事だという内容があり，その部分も良いと思った。音は様々な使い方があるのだと思う。例えば横断歩道で聞く音も音楽であり，日本人には一番馴染みのある曲を使用している。

（教 育 長）音楽は教育芸術社を採択する。理由は次のとおり

- ・日本の文化，伝統を大切にしながらも，新たな音が生活の中に沢山という事を児童に伝える内容である。

答申書のとおり，教育芸術社の教科書に決定

【図画工作】

野崎会長 答申のまとめを説明

主な質疑等

（新矢委員）開隆堂出版が良いと思う。開隆堂出版と日本文教出版の両方を見たが、開隆堂出版はとても色彩に富んでいる。遊び心があるので楽しく学ぶことができると思う。また、想像力を養う事に重点を置いているのが良い。少し複雑なところもあるが、相対的にみて、開隆堂出版が良いと思った。

（畠中委員）家庭科，音楽，図画工作は2者であり，どちらも良い教科書なので1つを選ぶというのが難しい。児童の感覚で観た時に強い遊び心を感じるのは，開隆堂出版であり，開隆堂出版が良いと思う。

（中田委員）開隆堂出版が良いと思う。教科書の題名が「わくわくするね」や、「力を合わせて」となっていて，教材の内容も日本文教出版に比べて興味を引く。また，各ページ数の横に材料が英語で書いてある。例えば「紙バンド」は「**paper band**」と横に書いてあり，面白いと思う。他には外での活動の内容で，日本文教出版は実際に児童の作ることが難しいと思う内容であり，開隆堂出版の方が実際に児童の実施しやすい題材が多かった。

（教 育 長）図画工作は開隆堂出版を採択する。理由は次のとおり

- ・色彩に富んでいる。
- ・遊び心があるので興味を引き，楽しく学ぶことができる。
- ・想像力を養う事に重点を置いている。

答申書のとおり，開隆堂出版の教科書に決定

【家庭科】

野崎会長 答申のまとめを説明

主な質疑等

（畠中委員）東京書籍が良いと思う。多種多様で内容が豊富である。

（新矢委員）開隆堂出版が良いと思う。版の大きさは東京書籍が良いが，紙の質は開隆堂出版が良く，色彩もいい。遊び心があり，楽しく学べる内容で，想像力を養う事に重点を置いている面が良い。児童の目線で作られてい

る感じで、写真は東京書籍に比べて非常にわかりやすい。どちらも良い教科書だが、開隆堂出版が良いと思った。

(池田委員) 開隆堂出版が良いと思う。先ほど意見があったように、写真や絵がとても綺麗で見やすい。しかし、選定委員の説明を聞いて、東京書籍の教科書は振り返り学習や、導入の部分に力を入れている点が良いと感じた。

(中田委員) 簡素化された内容で、読みやすいのは開隆堂だと思ったが、会長の説明の中での、生活を変えるチャンスという部分で、東京書籍は所々で生活に直結した内容があった。例えば枕カバーの事等が掲載させている面で東京書籍が良いと思う。また、東京書籍は左利きに配慮しているので、この点は大きいと思う。

(新矢委員) 利き手への配慮されている点等、説明や意見を聞くと、東京書籍も良い内容だと思う。

(畠中委員) 東京書籍の教科書を読んで、児童が家に帰って保護者と話す際の会話で、「教科書に出てきたような生活に変えてみようかな」という話ができると思う。

(新矢委員) 意見を交わしていると、東京書籍の教科書も良いと思う。

(畠中委員) 家庭科は食材が多く載っているので、食育にも直結する教科だと思う。

(会長) 全体的に東書は情報量が多く、難しい面もあり、開隆堂出版はシンプルでわかりやすいという両者の特徴を踏まえて比較検討した。最終的には、教科書の内容全てを教えるという使い方ではないので、東京書籍の内容を選びながら、教えていけば使いやすい教科書であるという意見から東京書籍を選定した。開隆堂出版の良さも十分把握したうえで判断した結果、東京書籍を選択している。

(教 育 長) 家庭科は東京書籍を採択する。理由は次のとおり

- ・教科書の情報量が多く、使用方法により児童の学習に良い。
- ・家庭の方でフィードバックしながら、コミュニケーションをとる事ができる内容となっている。

答申書のとおり、東京書籍の教科書に決定

【保健】

野崎会長 答申のまとめを説明

主な質疑等

(中田委員) 保健は東京書籍が良いと思う。写真が多くてわかりやすく、書き込

みできる欄が多い。また、他の教科書に比べて、まとまりがあり、簡潔である。

(新矢委員) 東京書籍は可もなく不可もなく、けがや病気や感染症などの記載が要点を得ていてわかりやすい。

(畠中委員) 大日本図書はシールが付いていて得した感じがする。保健は体育の授業の中で行うのか。

(教 育 長) 体育の中で保健を学習している。体育の授業は年間105時間行い、その中に保健が入っている。

(会 長) 保健の授業は3, 4年生がそれぞれ4時間。5, 6年生はそれぞれ8時間である。

(教 育 長) 保健は東京書籍という意見が多いため、東京書籍を採択する。理由は次のとおり。

- ・写真が多くてわかりやすく、書き込みできる欄が多い。
- ・他の教科書に比べて、まとまりがあり、簡潔である。

【外国語】

野崎会長 答申のまとめを説明

主な質疑等

(新矢委員) 学校図書を選んだ。理由は日常生活に繋がる英語を学ぶ内容となっている点で、外国語学習を学ぶにあたり、最初に難しく感じることなく学ぶ事ができる。英会話が主体となる授業で、児童が中心となって英語を進めている内容の写真が掲載されていると感じた。最初に楽しく英語を学び始めることができないと、そこから進めない状況が続いてしまうのではないかと思う。

(畠中委員) 英語は担任が教えるのか。

(教 育 長) 小学校は全教科指導なので、担任が教える。

(畠中委員) 英語の苦手な教員もいるのではないかと思う。聞く、書く、読むという基礎英語を教える事はできると思うが、日本人は英語ができないと言われる点は話す部分であり、文部科学省は英語を話せる人間を増やそうという事だと思うので、そこに重点を置くとなると、話すという事が重要だと思う。

(教 育 長) ALT (外国語指導助手) を各学校に配置し、授業の中で話す学習を行っている。中でも大竹小学校は広島県教育委員会による追加の外国語教員が配置されている。

(畠中委員) ALT と教員はどのように授業を行うのか。

(会 長) 文部科学省の作成した「We can」という副読本を使用している。

(教 育 長) 今までは教科書を使用していなかった、今まで指導していた内容をどれだけ教科書の中に反映しているかという点や使いやすさの点、指導しやすい教科書という面を踏まえて選定しているのではないかと思う。

(畠中委員) 今まで使用していた副読本と違いがあるのか。

(会 長) 今までは文科省から支給されている副読本,「Let's try」と「We can」という、中学年用,高学年用の副読本を使って学習していたが,大きく変わる点として,正式に「読み」,「書き」が入り,それを評価する点である。今までも話す学習はあったが,今後は話す面でも往復して会話するという練習を行い,より高度な会話を目指す事が求められている。読み書きが入るだけでなく,聞く,話す学習も中学校の英語に近付けた指導内容になってくると思う。その点を考慮すると,学習を進めるうえで,教科書はとても大切になるので,今回の選定は非常に重要である。

(畠中委員) 内容のバランスが取れているので,東京書籍が良いと思う。

(中田委員) 東京書籍を選んだ。ニューホライズンで学び,馴染み深いので,読みやすく感じる。また,英語という感じが強いと,英語学習に馴染む事が難しいが,最初から馴染みやすい内容である。小学校のうちから苦手意識を持ってほしくないという思いがあり,そういう面で見ると東京書籍のニューホライズンの方が楽しく学べる内容だと思う。全ての内容を一緒にして学習すると,英語の学習となるが,単語,活動面,筆記を分野毎にまとめて,それを分けている点が良いと思った。

(新矢委員) 学校図書は対面形式で対話をしている場面が多く,内容も分かりやすいので良いと思ったが,東京書籍も良い教科書だと思う。

(池田委員) 外国語活動が教科化され,子どもたちが一番ネックになるのはライティングだと思ったので,その部分を中心に教科書を見た。単語だけを書くよりも,文章として学習する事が望ましく,中学校になると文法を学習するので,わずかでも文章として身につけている方が良いのではないかと思う。文章で書くという学習の内容があるのは2社程度であり,その中の一つが東京書籍だった。正確に書かなければならないという思いを児童が持ってしまうと,英語を嫌いになってしまふところがある。東京書籍の教科書は上部に書いてあることを真似して単語を書く事で,抵抗無く学習し,文書として書くことができています。こういう内容は2者程度しかなく,文章としてライティングができる面が良いと思った。ライティングについて選定委員会の意見があるか。

(会 長) ライティングについては,覚えて書くというのは難しく,書き写すことが中心になるが,量は多く行わない。1時間の授業で書き写すのは1,2文程度にして,残りの時間で対話やリスニングを行い,そこに重

点を置く。書く学習に重点を置くと、覚えられない、書けない事で嫌いになるという事があるので、書く事を最小限にとどめるよう、指導者も無理の無い指導を行うための研修を進めている。

(池田委員) 今までの外国語活動は文章での評価だが、英語になるとどうなるか。

(会 長) 数値による評価となる。

(池田委員) テストを行う事になるのか。

(会 長) テストを実施する事になる。

(事務局) 指導要録も他の教科と同様となる。

(会 長) 評価を数値化すると得意、不得意が出てくる。そういう意味でも児童の意欲を下げる事の無いよう、今まで以上に指導の工夫が必要になると考えている。誰が指導するのかという点もあるが、現在は実情として、ALT や加配教員に頼っている部分がある。担任が指導するという事は現実的に難しかった部分があるので、現在、誰が担任になっても指導を行えることができるよう、1年をかけて研修を行っている。担任自ら、無理なく、抵抗なく英会話ができるよう、日常的な会議の合間の時間等に、職員間で3往復程度の英会話を行うことのできるよう取り組みを行いたいと思い、外国語担当の教員を中心に試みているところである。

(新矢委員) 職員間で3往復程度の英会話は可能か。

(会 長) 可能だと思う。難しい会話ではなく、「私もですよ」とか、「あなたはどうか」といった単純なやり取りであれば3往復程度の会話はできると思うので、無理のない会話を繰り返す事で、教員自身も上達する。そして指導をするにあたり、教員が楽しくないと児童も楽しく学習できないので、無理の無いよう、外国語の指導に取り組んでいきたいと考えている。

(教 育 長) 外国語は東京書籍を採択する。理由は次のとおり。

- ・ 全ての内容を一緒にして学習するのではなく、単語、活動面、筆記を分野毎にまとめてあり、楽しく学べる内容である
- ・ 上部に書いてある見本と同じ単語等を書く事で、抵抗無く文書を書く学習ができる内容となっている。

【道徳】

野崎会長 答申のまとめを説明

主な質疑等

(畠中委員) 昨年度、道徳の教科書の採択を行った。少し内容が変わっているが、昨年度同様に日本文教出版の教科書が良いと思った。

(新矢委員) 前回採択した時には日本文教出版を選んだ。採択にあたり、内容を確認したが、今回は少し内容が変わっていたので、東京書籍が良いと思った。今回、東京書籍を読んでみると、身近な事や題材が良く、取り上げている材料に共感した。

(池田委員) 日本文教出版が良いと思う。先ほど会長から説明のあった「道徳ノート」というのが教員にとって評価をするのに役に立っていると思う。今回さらに進化をして、今までは上部に質問があり、下部にも質問が2つ程度あり、記述を行う形式だったが、学習のねらいに合わせて最後にふりかえりの部分を工夫されているのが良いと思う。他の教科書にも同じような付属のノートがあるが、日本文教出版のものは別冊になっているので、教員が回収して評価したり、教材によっては個別に児童を呼んで話をするという活用ができるので、その点も良いと思う。

(新矢委員) 付録が付いている教科書に抵抗があるが、「道徳ノート」は教科書と同等に作られており、良いものだと思う。しかし、東京書籍も良い教科書だと思う。

(中田委員) 昨年度同様、日本文教出版を選んだ。「生きる力」という教科書の題名が魅力的である。1年生で命の学習を行うが、赤ちゃんの泣いている写真で現実の場面が良く伝えられ、現実の命との繋がりを感じることができる所が良い。また「道徳ノート」も良いものだと思う。

(教 育 長) 道徳は日本文教出版を採択する。理由は次のとおり。

- ・身近な事や題材が良く、取り上げている材料が良い。
- ・教材にあわせた別冊の「道徳ノート」があり、学習に使用しやすい。
- ・適切な写真が使用され、現実の場面が良く伝えられている。

議案第22号採決 全員が賛成し可決

日程第4 議案第23号 令和2年度大竹市使用特別支援学級用教科用図書の採択について

事務局説明

特別支援学級で使用する教科用図書のうち、学校教育法附則第9条の規定により、図書の選定について、当該児童生徒の教育課程において検定教科書を使用することが適当でない場合は、文部科学省著作教科書や一般図書といったほかに適切な教科用図書を使用することができるとされている。

この9条図書について、各学校では学校長を中心に教頭、特別支援学級の担任、

特別支援コーディネーターによる選定会議を設置し、生徒の実態に合わせた適切な教科書の選定を個別に行った。

各学校が選定した教科書を使用するためには、使用する前年度の8月31日までに教育委員会において採択する事とされているため、各校から教育委員会へ提出された選定教科書の報告に基づき、「令和2年度使用特別支援学級用教科用図書」の一覧を作成し、議案として提出したので、審議をお願いします。

主な質疑等

（畠中委員）現在までに選定した一般図書等が児童生徒に適さなかった事はあるか。

（教 育 長）その児童生徒の課題を解決し、力を付けていくのに何が良いのかを考えて選んでいる。絵本が良いのか、図鑑が良いのか等、個に応じて選んでいるため、学校現場での経験で適さなかったという事例を聞いたことはない。

議案第23号採決 全員が賛成し可決

教育長（小西 啓二）

以上をもって本日の議事日程をすべて終了したことを告げ、閉会を宣言した。

16時55分散会